

第3回 広島市健康づくり計画「元気じゃけんひろしま21（第3次）」策定懇談会 会議要旨

1 会議名

第3回広島市健康づくり計画「元気じゃけんひろしま21（第3次）」策定懇談会

2 開催日時

令和6年3月4日（月）19:00～20:00

3 開催場所

広島市中区地域福祉センター5階 大会議室

4 出席委員（14名）

梯座長、金沢委員、瓜生委員、木村委員、溝上委員、中野委員、寺村委員、八木委員、下原委員、松本委員、川根委員、井唯委員、西田委員、森永委員（順不同）

（欠席：辻副座長、河村委員、西本委員、大森委員、大串委員、河野委員）

5 オブザーバー・事務局

(1) オブザーバー（2名）

佐伯区厚生部地域支えあい課医務監、安佐南区厚生部地域支えあい課専門員

(2) 事務局（8名）

健康福祉局保健医療担当局長、健康福祉局保健部長、健康福祉局保健部参与(事)健康推進課長、健康福祉局保健部医務監(事)保健指導担当課長、健康福祉局保健部健康推進課職員4名

6 議題

(1) 「元気じゃけんひろしま21（第3次）」の最終案について

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴人

0名

9 会議資料

資料1 第2回策定懇談会における主な意見への対応

資料2 「元気じゃけんひろしま21（第3次）」素案に対する市民意見募集の結果について

資料3 広島市健康づくり計画「元気じゃけんひろしま21（第3次）」(案)

参考資料 「元気じゃけんひろしま21（第3次）」(案) 概要

10 会議要旨

- (1) 「元気じゃけんひろしま21（第3次）」の最終案について
資料1から資料3に基づき、事務局が説明を行った。

【主な質疑応答等の要旨】

(委員)

第2次計画を踏襲した構成になっており、ほとんど網羅されており大変進めやすいと感じた。

高齢者の分野で進めるにあたり、工夫して取り組まないと前に進まない項目もある。資料3の66ページの高齢世代が目指すべき姿に、全体の項目が羅列されており、ここに向かって地域と連携し進めていくことになるが、第2次計画においてなかなか思うようにいかなかった項目も継続してあるので、そのあたりを反省したり、新しいことも検討しながら、達成に向かっていかなければならないと考えている。

9つの中で、「栄養・食生活」と「身体活動・運動」の2つの項目については、老人クラブや各地域の介護予防拠点で、地域の方を誘って百歳体操やいきいきサロンに取り組み、大変よく頑張っていると思う。いろいろな活動が口コミで広がっているので、運動に対する市民の意識度は上がっているが、参加人数が十分ではないため、いかに人数を増やしていくかというのが、我々の仕事であり、とにかく声掛けをしたいと感じている。

「休養・睡眠」、「歯・口腔の健康」については、いろいろな場で啓発活動をするが、持続的に取り組んでいくことが難しい実情がある。そういった意味で、今後は、関係機関や行政と連携、検討しながら進めていきたい。

「飲酒」と「喫煙」だが、今の高齢者の実情を見ると、個人の考え方に委ねる部分が増え、統一した活動が難しいため、そこを詰めないと前に進まないと感じている。

「生活習慣病の理解」については、具体的な周知徹底は難しいという現状である。ただ、各種講演会やセミナー等を企画しているので、できるだけその中に組み込み、進めていきたいと考えている。

「市民の主体的な健康を支える地域づくり」については、老人クラブではいろいろな活動や介護予防拠点の活動が拡大するほど、健康寿命が延伸する者も増えるため、参加者を拡大したいが、問題なのが認知症である。2025年には80歳以上で5人に1人が、85歳で5人に2人が認知症を発症するという統計推測があり、切羽詰まった問題でもあるので、そのような方々とのつながりを深めたり地域として支える活動に取り組んでいこうと考えている。

(座長)

計画はしっかりとできつつあるが、これを実際に実施する時に、皆様方それぞれの専門領域に期待するところが大きく、協力の下で充実して進めていくことができる。老人クラブにおかれては、しっかりとした取組が期待できそうであり、良い成果に繋がれば良いと思った。

(委員)

「COPD」が認知されていないことから、市が仮に括弧書きで「タバコ肺」としているということであった。唯一、ローマ字で認知しにくいので、「タバコ肺」というのは悪くないが、安易であり、全国的に呼吸器学会等で決めてもらわないといけなことはないかと思った。

また、資料3の8ページの新型コロナウイルス感染症の影響についての表は、よくまとまっている。新型コロナウイルス感染症の非常にわかりやすい総括と思えたが、今後コロナが収束した際に同様の統計があり、コロナ禍前に戻ったということがわかれば、運動や食事等が大切なことだと分かるため、なんとか市民にアピールできたら良い。

(座長)

COPDについては、かつて議論をした覚えがあり、しっかりと意味を理解してもらうのは難しい面があるが、事務局で追加の説明はあるか。

(事務局)

第2次計画の中間評価の際、国においては、「慢性閉塞性肺疾患」という正式名称を括弧書きしているが、「COPD」の周知徹底が難しいということで、委員に意見交換をしてもらった。COPDは、タバコを吸うとわかりやすくなる病気であり、禁煙が重要なポイントになるということを市民にわかりやすく伝えるため、中間評価以降、市独自の取組にはなるが括弧書きで「タバコ肺」と表記することにした。

本市が作成するパンフレットや、市民に話をさせていただく際は、この表記をしており、第3次計画においても、引き続きこの取組を続けるよう考えている。

(委員)

「COPD」について、「タバコ肺」の方がはるかに名前としては良い。ただ、骨粗しょう症や急性心筋梗塞などの難しい言葉は、慣れてしまえば通用する。だから、「閉塞肺」などどうかなど考えたが、ローマ字以外の表記を考えてもらえたらと思う。

(委員)

先般、厚労省から「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」が発表され、報道等でも話題になっており、飲酒に関する意識や捉え方が変わってきているようだが、飲酒に関する取組の記載は、ガイドラインと整合性がとれているのか。

(事務局)

「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」を踏まえて記載している。第2次計画においては、「適正な飲酒は、増大するストレスを緩和し、人間関係を円滑にする効果がある一方、過度な飲酒は…」と、まずメリットを記載していたが、今回のガイドラインでは、そういったメリットの記載は一切なくなった。むしろ、31ページの冒頭のように、様々な健康障害との関連が指摘されていることや、具体的な病名もいくつか挙がり、事故等の社会的な問題の要因にもなっているという視点で、適正飲酒が重要だという内容を今回は記載している。

(委員)

社会における飲酒に関する関心が高まっているので、そのような説明が記載されていれば動機付けに非常に有効であるため、我々の世代でも周知できればと思う。

(座長)

今後大事なのは、計画を実行して成果を出していくことだと思う。また、それに向けて先生方の御協力をぜひお願いしたい。

(事務局)

今回いただいた御意見を踏まえ、修正等はないため、第3次計画の完成とする。

これまで、第3次計画策定のため、皆様方には多大なるお力添えを賜り、感謝する。